

海國圖志
校編輯

日本畧史

上

T1A1
26
(K139)

師範學校編輯

日本畧史

明治年刊

文部省刊行

刊

部

日本略史

凡例

小學生徒ハ受業ノ時間ニ定期アルヲ以テ授ク
ル所ノ書皆簡略ヲ主トス故ニ此編ニハ神代及
御諱山陵等ヲ省キテ文中ニ御奉給等ノ文字ヲ
缺ク其ノ紙張ヲ減セシコトヲ欲スルハナリ
飯豐天皇ヲ歴代ニ列セサルハ古事記及日本紀
ニ據ル
長慶天皇ハ新葉集ノ序ニ據リテ亦歴代ニ列セ
ス

凡例

文部省

遣唐使遣新羅使ノ類ハ事故アルニ非レハコレ
ヲ省ク諸臣ノ官位及其ノ姓ヲ記サ、ルモ亦簡
略ヲ主トスレハナリ

日本略史上卷

木村正辭 編

那珂通高 訂

第一代神武天皇ハ、天照大神五世ノ孫ニシテ、鸕
鷯草葺不合尊ノ子ナリ、

天祖天照大神ノ子ヲ天忍穗耳尊ト稱ス、天忍
穗耳尊彦火瓊杵尊ヲ生ム、天祖高天原ニ在
リテ、武甕槌經津主ノ二神ニ命シ、葦原中國ヲ
日本國ノ平定セシメ、皇孫彦火瓊杵尊ニ賜
フニ、三種ノ神器ヲ以テ、其ノ國ニ降ラシメ

テ、主トス、彦火瓊々杵尊、日向國ニ居リ、彦火々
出見尊ヲ生ム、彦火々出見尊ノ子ハ、卽、鸕鷀草
葺不合尊ナリ、

天皇生ナガラニシテ、明達ナリ、年十五ノ時ニ立
チテ太子トナリ、後倭、橿原宮ニ治ス、○初天皇日
向ニ在リテ、諸兄及皇子等ニ告ゲテ曰ク、昔天神
此豐葦原瑞穗國日本國ノ古名ナリヲ、我が天祖ニ授ケシ
ヨリ、降リテ、西偏ニ居ルコト、多ク年所ヲ歷タリ、
獨奈何セン、遼邈ノ地、未王澤ニ霑ハズ、邑ニ君ア
リ、村ニ長アリ、以テ相陵轢スルヲ、吾將ニ東征シ

テ都ヲ中州ニ定メ、以テ天業ヲ恢ニセンコトヲ
欲スト、乃親皇族ヲ帥井テ、舟師東ヲ指シ、筑紫安
藝、吉備等ノ國ヲ經テ、難波ヨリ、河内ニ到リ、倭ニ
入ラントス、長髓彦ト云フ者アリ、衆ヲ悉シテ、コ
レヲ拒ク、皇軍利アラズ、因リテ、轉ジテ、路ヲ紀伊
ニ取リ、丹敷戸畔ヲ荒坂津ニ誅シ、頭八咫鳥ヲ以
テ、鄉導トシ、菟田下縣ニ至リ、兄猾ヲ誅シ、又兄磯
城等ヲ斬リ、遂ニ長髓彦ヲ征ス、是ヨリ先、饒速日
命、天ヨリ降リテ、倭ニ居ル、長髓彦、コレヲ奉シテ
主トシ、皇軍ニ抗ス、是ニ於テ、饒速日命、長髓彦ヲ



殺シテ降り中州悉平ク、
天皇乃宮ヲ倭畝火橿原
ニ經營シテ帝位ニ即ス
寔ニ辛酉ノ年ナリ明治
五年十一月詔シテ太陰
曆ヲ廢シ太陽曆ヲ用キ
此ノ歲ヲ以テ紀元トス
即今明治七年ヲ距ルコ
ト二千五百三十四年ナ
リ○天皇在位七十六年

ニシテ崩ズ年百二十七

第二代綏靖天皇ハ神武天皇ノ子ナリ天皇ノ庶
兄手研耳命陰ニ不軌ヲ圖ル天皇コレヲ覺リテ
同母兄神八井耳命ト謀リコレヲ誅ス○葛城ニ
都スコレヲ高岡宮トイス在位三十三年ニシテ
崩ズ年八十四

第三代安寧天皇ハ綏靖天皇ノ子ナリ都ヲ片鹽
ニ遷スコレヲ浮穴宮トイス在位三十八年ニシ
テ崩ズ年五十七

第四代懿德天皇ハ安寧天皇ノ子ナリ都ヲ輕ニ

遷スコレヲ曲峽宮トイフ、在位三十四年ニシテ
崩ス年七十七、

第五代孝昭天皇ハ、懿德天皇ノ子ナリ都ヲ掖上
ニ遷スコレヲ池心宮トイフ、在位八十三年ニシ
テ崩ズ年百十四

第六代孝安天皇ハ、孝昭天皇ノ子ナリ都ヲ室ニ
遷スコレヲ秋津島宮トイフ、在位百二年ニシテ
崩ズ年百三十七、

第七代孝靈天皇ハ、孝安天皇ノ子ナリ都ヲ黑田
ニ遷スコレヲ廬戸宮トイフ、在位七十六年ニシ

テ崩ス年百二十八、

第八代孝元天皇ハ、孝靈天皇ノ子ナリ都ヲ輕ニ
遷スコレヲ境原宮トイフ、在位五十七年ニシテ
崩ズ年百十六、

第九代開化天皇ハ、孝元天皇ノ子ナリ都ヲ春日
ニ遷スコレヲ率川宮トイフ、在位六十年ニシテ
崩ズ年百十五

第十代崇神天皇ハ、開化天皇ノ子ナリ都ヲ磯城
ニ遷スコレヲ瑞籬宮トイフ、天皇神祇ヲ尊崇シ
皇女豐鍬入姫命ヲシテ天照大神ヲ倭ノ笠縫邑

ニ祀ラシム、初大神寶鏡ヲ皇孫ニ賜ヒスコレヲ
殿内ニ奉セシム、是ニ至リテ其ノ威ヲ瀆サシコ
トヲ畏ル、故ニコレヲ遷シテ別ニ鏡劍ヲ模造セ
シメ御座ニ置ク、又天社國社ヲ定ム、○將軍ヲ北
陸東海吉備丹波ノ四道ニ遣ハス會武埴安彥反
ス討ナテコレヲ平ク、○始メテ人民ヲ拔シテ以
テ調役ヲ課ス、又諸國ニ令レテ船舶ヲ造ラシム、
任那國始メテ來貢ス、○天皇深ク心ヲ民事ニ用
非天下大ニ治ル、民稱レテ御肇國天皇トイフ、在
位六十一年ニレテ崩ズ、年百十九、

第十一代垂仁天皇ハ崇神天皇ノ子ナリ、都ヲ纏
向ニ遷スコレヲ珠城宮トイフ、○皇后狹穗姫ノ
兄狹穗彥不軌ヲ圖リ、皇后ヲ誘ヒ逆ヲ行ハシメ
ントス、皇后實ヲ天皇ニ告グ、天皇ハ綱田ニ命ジ
テコレヲ討タシム、狹穗彥拒守ス、皇后兄ヲ救ハ
シコトヲ欲シ、皇子譽津別尊ヲ抱キテ城中ニ投
ズ、ハ綱田火ヲ縱チテ城ヲ焚ク、皇后乃、皇子ヲ出
メシテ兄ト共ニ城中ニ死ス、○新羅國ノ王子天
日槍來リテ、鏡王、刀鉾等ヲ獻ズ、○皇女倭姫命ヲ
シテ豐鍬入姫命ニ代ヘテ、天照大神ヲ祀ラシム、

倭姫命、神教ニ隨ヒテ、祠
 フ伊勢ノ度會ニ遷ス。○
 詔シテ、殉死ヲ禁ズ、野見
 宿禰、上偶ヲ造リテ、天皇
 代ヘムコトヲ請フ、天皇
 コレヲ嘉シテ、立テ、永
 制トシ、土師臣ノ姓ヲ賜
 フ、野見、宿禰、嘗テ倭ノ當
 麻蹠速ト、カラ角ベテ、コ
 レニ克ツ、是、朝廷相撲ノ

野見宿禰土師ヲシテ
 土偶ヲ作ラシムル圖



儀ノ權輿ナリ。○天皇、在位、九十九年ニシテ崩ズ、
 年百三十九

第十二代、景行天皇ハ垂仁天皇ノ子ナリ、纏向ニ
 都ス、コレヲ日代宮トイス。○筑紫ノ熊襲反ス、天
 皇親征シテ、コレヲ平グ、既ニシテ熊襲再反ス、皇
 子、日本武尊ヲシテ、コレヲ討タシム、皇子、時ニ年
 十六、女装シテ賊巢ニ入り、其ノ酋ヲ刺ス、餘衆咸
 服ス、又皇子ヲシテ、東夷ヲ征セシム、皇子、乃、伊勢
 ニ到リテ、神宮ヲ拜ス、倭姫命、授ルニ、叢雲劍、及、燧
 袋ヲ以テス、皇子、駿河國ニ到ル、虜倭リ降リテ、皇

子ヲ誘ヒ、燐鐵モシメ火ヲ放テ其ノ野ヲ焚久皇
子、燐ヲ以テ火ヲ出ダシ、コレヲ逆ヘ燒キ、劍ヲ挺
キテ草ヲ薙ギ、頼リテ以テ免ル、コトヲ得タリ、
是ヨリ叢雲劍ヲ改メテ草薙劍トイフ、今猶熱田
ノ神宮ニ祀ル者、是ナリ皇子、遂ニ進ミテ、相摸ヨ
リト總ニ航セントス、海上暴風ニ遇ス、妃、橘媛、神
ニ祈リテ、海ニ投ス、暴風即止ム、船岸ニ達スルコ
トヲ得タリ、皇子進ミテ、蝦夷ノ境ニ到ル、賊皆風
ヲ望ミテ降り、邊境悉平グ、皇子、還リテ、碓日嶺ニ
登リ、東南ヲ顧ミ、橘媛ヲ追慕シ、歎シテ曰ク、吾婦

者耶ト、山東ノ諸國、コレニ因リテ、今猶吾婦國今東

國ト稱ス、皇子、伊吹山ニ至リ、山神ノ毒氣ニ中

リテ病ム、乃、夷倭ヲ、伊勢ノ神宮ニ獻シ、吉備武彦

ヲシテ、京ニ復命セシメ、遂ニ、伊勢ノ能褒野ニ薨

ズ、時ニ年三十、天皇、大ニ悼惜シ、其ノ功ヲ録シテ、

武部ヲ定ム、○天皇、近江國ニ幸シテ、志賀ニ居ル

コト三年、コレヲ、高穴穗宮トイフ、在位、六十年ニ

シテ崩ズ、年百四十三

第十三代、成務天皇ハ、景行天皇ノ子ナリ、高穴穗

宮ニ即位ス、武内ヲ大臣トス、大臣ヲ置クコト、此

大略ニ

ニ始マハ、國郡ニ造長ヲ立テ、縣邑ニ稻置ヲ置キ、
山河ヲ界ヒテ、國縣ヲ分ツ、在位、六十年ニシテ崩
ス、享年未詳
ナラズ、

第十四代、仲哀天皇ハ、景行天皇ノ孫ニシテ、日本
武尊ノ第二子ナリ、大伴武以ヲ、大連トス、大連ヲ
置クコト、此ニ始マハ、天皇、皇后ト、越前メ角鹿ニ
幸ス既ニシテ、皇后ヲ留メテ、紀伊ニ巡狩ス、會熊
襲反ス、天皇親征シテ、長門ニ至リ、宮室ヲ造リテ、
コレニ居ル、コレヲ、豐浦宮トイフ、皇后モ亦至ル、
與ニ進ミテ筑紫ニ幸ヒ、香推宮ニ居リ、群臣ヲ會

シテ議ス、時ニ神ノリ、皇后ニ憑リテ曰ク、熊襲ノ
如キハ、師旅ヲ勞スルニ足ラズ、西方ニ寶國アリ、
新羅トイフ、モシ能ク我ヲ祭ラバ、其ノ國必服シ
テ、熊襲モ亦自^オ從ハント、天皇信ゼズ、數月ヲ歷テ、
香推宮ニ崩ス、在位九年、享年未詳
ナラズ、

第十五代、神功皇后ハ、仲哀天皇ノ后、開化天皇ノ
五世ノ孫ニシテ、氣長宿禰王ノ女ナリ、磐余ニ都
ス、コレヲ、若櫻宮トイフ、○皇后、仲哀天皇ノ崩ズ
ルニ及ビテ、大臣武内ト謀リ、秘シテ喪ヲ發セズ、
神教ヲ奉ジテ、西征セントス、會身ノルコト有リ



テ、産月ニ當ル、乃石ヲ腰
ニ捕ミ、祝シテ曰ク、願ク
ハ、事竟ヘテ還ラム日ニ
茲土ニ婉セシメヨト、遂
ニ新羅ヲ征ス、新羅王出
デ、降リ、金銀、絹帛ヲ、船
八十艘ニ載セテ獻ズ、コ
ノヲ調貢ノ定額トス、是
ニ於テ、高麗百濟ノ二國
王モ、亦降ル、コレヲ三韓

トイフ、今ノ朝鮮國是ナリ、皇后因リテ官家ヲ置
キ、還リテ筑紫ニ到リ、皇子ヲ産ム、是應神天皇ナ
リ、皇后朝ニ臨ミ、政ヲ攝スルコト、六十九年ニシ
テ崩ス、年一百、

第十六代應神天皇ハ、仲哀天皇ノ子ナリ、輕島ニ
都ス、コレヲ豐明宮トイフ、皇太后ノ攝政三年ニ
立チテ太子トナリ、此ニ至リテ即位ス、時ニ年七
十一〇、百濟王其ノ國ノ博士、王仁ヲシテ、治工卓
素、吳服、西素等ヲ率ヰテ入朝セシメ、論語及千字
文ヲ獻ス、皇子菟道稚郎子、王仁ヲ師トシテ學ス、

高麗ノ使者來リテ表ヲ上ル一及ヒテ推郎子其
文ヲ以テ倭嬖ナリトシ奏シテ使者ヲ責メ表ヲ
壞ル○推郎子ヲ立テ、皇太子トス○天皇在位、
四十一年ニシテ崩ス、年百十一、

第十七代仁德天皇ハ、應神天皇ノ子ニシテ皇太
子ノ兄ナリ、應神天皇崩スルニ及ヒテ、皇太子位
ヲ天皇ニ讓ル、天皇聽カス、位ヲ空レクスルコト
三年、皇太子、天皇ノ志奪フヘカラサルヲ知リテ、
自殺ス是ニ於テ、天皇遂ニ即位シ、都ヲ攝津ノ難
波ニ遷ス、コレヲ高津宮トイフ、一日天皇人烟ノ

稀少ナルヲ見テ、民ノ貧シキヲ知リ、相親ヲ除ク
コト三年百姓大ニ富ム、○難波堀江ヲ鑿リ、池溝
ヲ通シ、堤防ヲ築ク、民皆其ノ利ニ賴ル、○蝦夷反
ス、將軍田道ヲ遣ハシテ、コレヲ征セシム、○天皇
在位八十七年ニシテ崩ス、享年未詳

第十八代履仲天皇ハ、仁德天皇ノ長子ナリ、磐余
若櫻宮ニ治ス、住吉仲皇子反ス、瑞齒別皇子、反正天皇

コレヲ誅スニ皇子共ニ、天皇ノ弟ナリ、○天皇詔
レテ、史ヲ諸國ニ置キ、言事ヲ記シ、四方ノ志ヲ達
セシム、始メテ職職ヲ置ク、因リテ職部ノ定ム、在

位、六年ニシテ崩ス、享年未詳

第十九代反正天皇ハ、履中天皇ノ同母弟ナリ、都

ヲ河内ノ丹比ニ遷ス、ユ、レヲ紫籬宮トイフ、在位

六年ニシテ崩ス、享年未詳

第二十代允恭天皇ハ、反正天皇ノ同母弟ナリ、都

ヲ遠飛鳥宮ニ遷ス、反正天皇崩シテ嗣無シ、群臣

迎ヘテ、天皇ヲ立ツ、天皇辭シテ許サス、群臣固ク

請フ、遂ニ即位ス、○天皇詔シテ、百官諸臣ヲ會シ

料代ノ詐冒ヲ正ス、在位、四十二年ニシテ崩ス、享年未詳

第二十一代安康天皇ハ、允恭天皇ノ子ナリ、允恭

天皇、木梨輕皇子ヲ立テ、太子トス、太子、湔盧ナ

ルヲ以テ、群臣望フ、天皇ニ歸ス、太子兵ヲ集メテ、

將ニ天皇ヲ襲ハントス、天皇、群臣トコレヲ攻メ、

太子自殺ス、因リテ即位シ、都ヲ石上ニ遷ス、コハレ

ヲ穴穗宮トイフ、○天皇母弟、大泊瀬皇子推略

爲ニ、大草香皇子ノ妹幡梭皇女ヲ聘セシトス、使

者詔シテ、大草香皇子、詔ヲ奉ゼバト奏ス、天皇怒

リテ、皇子ヲ殺シ、其ノ妃、中葉姫ヲ取リテ、皇后ト

ス、○初皇后、大草香皇子ノ家ニ在リテ、眉輪王ヲ

生メリ、後天皇山宮ニ幸シテ、皇后ト宴ビ、醉テ寢
ス、王、天皇ヲ弑シテ、大臣葛城圓ノ家ニ匿ル、時ニ
年七歳ナリ、天皇、在位、三年、年五十六、

第二十二代、雄略天皇ハ、允恭天皇ノ子ナリ、天皇
峻刻ニシテ、仇健人ニ過キタリ、安康天皇ノ弑セ
ラル、ニ方リテ、天皇諸兄ヲ疑ヒ、兵ヲ率キラ、ハ
鈞、白彥皇子ニ迫リ、遂ニコレヲ斬リ、圓ノ第ヲ圍
ミ、火ヲ縱テ、圓、及眉輪王ト坂合、黑彥皇子トヲ
焚殺ス、又市邊、押磐皇子、及御馬皇子ヲ殺シ、遂ニ
泊瀨朝倉宮ニ即位ス、○天皇、嘗テ葛城山ニ獵ス、

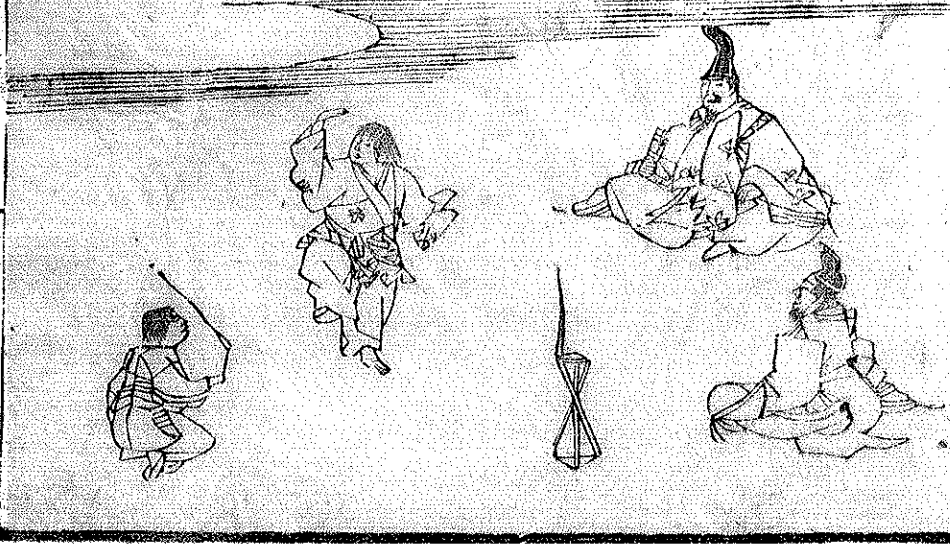
野猪竊キ至ル、舍人ニ命シテ、刺シ殺サシメント
ス、舍人怖レテコレヲ避ク、天皇怒リテ、舍人ヲ弑
セントス、皇后幡媛皇女諫メテ曰ク、獸ノ故ヲ以
テ、人ヲ殺サバ、豈豺狼ニ異ナランヤト、天皇欣然
トシテ曰ク、人ハ禽獸ヲ殺ス、朕ハ善言ヲ獲タリト、
乃舍人ヲ釋ス、○天皇、皇后ニ勅シテ、親桑ヲ採ラ
シメテ、以テ蠶事ヲ勸ムル、吳人來聘シテ、工女漢
織、吳織、衣縫、兄媛弟媛ヲ貢ス、○豐受大神ヲ丹波
ヨリ伊勢ノ山田ニ遷シ祀ル、天皇、在位、二十三年
ニシテ崩ズ、年六十二、

第二十三代清寧天皇ハ、雄略天皇ノ子ナリ、磐余、
 寶栗宮ニ治ス、皇弟星川皇子反ス、討テコレヲ
 平ス、天皇嗣無キヲ憂フル、ト久シ市邊担磐皇
 子ノ遺子、億計弘計ニ王、播磨國ニ在リト聞キ、迎
 ハテ、億計王ヲ立テ、皇太子トス、○天皇在位五
 年ニシテ崩ズ、年四十一、

第二十四代、顯宗天皇ハ、即弘計王ナリ、清寧天皇
 崩シテ後、皇太子位ヲ天皇ニ讓ル、天皇固辭ス、是
 ニ於テ、姑飯豐青皇女、政ヲ角刺宮ニ聽ク、九月ニ
 シテ皇女崩ズ、皇太子及大臣平群眞鳥等固ク請

ス、因リテ近飛鳥ハ鈞宮
 ニ即位ス、皇太子ハ仍故
 ノ如シ、○天皇父ノ害ヤ
 ラレシ時、尚幼ニシテ、其
 ノ墓ノアル所ヲ知ラバ
 因リテ父老ヲ聚メ、親臨
 シテ歷問シ、遂ニコレヲ
 近江ノ來田綿坂屋野ニ
 得テ、改葬ス、○天皇父シ
 ク民間ニ在リテ、百姓ノ

億計弘計王起葬圖



疾苦ヲ知ル故ニ賦歛ヲ薄クシ貧窮ヲ恤ム又此
年豐熟シテ穀一斛ノ直銀錢一文ナルニ至ル在
位三年ニシテ崩ズ年三十八

第二十五代仁賢天皇即億計王ナリ石上廣高宮
ニ即位ス天皇仁惠謙恕吏ハ其ノ職ニ稱ヒ民ハ
其ノ業ヲ安クシ戸口蕃殖ス初顯宗天皇位ニ即
キテ雄略天皇ノ陵ヲ發キ父ノ仇ヲ報セントス
天皇コレヲ諫メテ止ム在位十一年ニシテ崩ズ
年五十

第二十六代武烈天皇ハ仁賢天皇ノ子ナリ仁賢

天皇崩スルニ及ビテ大臣平群眞鳥潛ニ篡奪ノ
謀リ其ノ子鮪又天皇ニ禮ナシ是ニ於テ大伴金
村ト謀リテ父子ヲ誅シ泊瀨列城宮ニ即位ス○
天皇刑律ヲ好ミ法令嚴明ナリ諸ノ酷刑親臨シ
サルハ無シ民皆震怖ス在位八年ニシテ崩ス年
未詳ナ
ラス

第二十七代繼體天皇ハ應神天皇ノ五世ノ孫ナ
リ父ヲ彥主人王トイフ○天皇幼ニシテ孤ナリ
母ニ從ヒテ越前ノ高向ニ居リ長スルニ及ビ天
大度アリ士ヲ愛シ賢ヲ禮ス武烈天皇崩シテ嗣

無シ群臣議シテ、天皇ヲ迎フ。天皇遂ニ河内ノ樟葉宮ニ即位ス。後又都ヲ磐余ニ遷ス。コレヲ王穗宮トイフ。近江、毛野ヲシテ、新羅ヲ代チテ、任那ノ故地ヲ復セシム。筑紫國造磐井、反レテ謀ニ新羅ニ通ス。物部麤鹿火ヲシテ、討チテコレヲ平ケレム。○大皇在位、二十五年ニシテ崩ズ。年八十二。第二十八代、安閑天皇ハ、繼體天皇ノ子ナリ。都ヲ勾金橋宮ニ遷ス。在位二年ニシテ崩ズ。年七十。第二十九代、宣化天皇ハ、安閑天皇ノ同母弟ナリ。安閑天皇崩シテ嗣無シ。群臣ノ請ニ因リテ即位

シ。都ヲ檜隈ニ遷ス。コレヲ廬入野宮トイフ。○詔レテ、筑前ノ屯倉ヲ修シ、以テ凶荒ニ備ヘシム。在位四年ニシテ崩ズ。年七十三。

第三十代、欽明天皇ハ、繼體天皇ノ子ナリ。宣化天皇崩シテ嗣無シ。群臣議シテ、天皇ヲ迎フ。因リテ即位ス。都ヲ磯城島ニ遷ス。コレヲ金刺宮トイフ。○百濟ヨリ、佛像及經論ヲ獻ズ。天皇コレヲ蘇我稻目ニ賜フ。會、諸國大ニ疫アリ。物部尾輿等謂ヘニ、久、蕃神ヲ禮スルノ致ス所ナリト。因リテ奏シテ、佛像ヲ難波、堀江ニ投ズ。○新羅任那ヲ滅シ、我

官府ヲ毀シ、紀男麻呂、河邊、瓊年ヲシテ、コレヲ討タルム、瓊正、輕進シテ利ヲ失、擒ニセラル、調伊企、難コレニ死ス、○大伴狹手彦、高麗ヲ討ナテ、コレヲ破リ、其ノ都城ニ入リ、珍寶ヲ得テ還ル、○天皇疾アリ、後事ヲ以テ、皇太子ニ屬シテ曰ク、新羅



ヲ征シテ、任那ヲ復セヨト遂ニ崩シ、在位三十二年
享年未詳ナラス

第三十一代敏達天皇ハ、欽明天皇ノ子ナリ、都ヲ譯語田ニ遷スコレテ、幸王宮トイフ、○天皇葦北國造ノ子日羅久シク百濟ニ在リテ、夷情ヲ知ルヲ以テ、コレヲ召シ還シ、新羅ヲ伐ツノ策ノ問フ日羅曰ク、夷ヲ服スルノ道國本ヲ培養スルニ在リト、其ニ其ノ策ヲ陳フ天皇、コレヲ嘉ス、○蘇我馬子佛ヲ信シ、寺塔ヲ建ツ、物部守屋中臣勝海ハルヲ劾奏ス、馬子病ノ爲ニ、佛ニ禱ランコトヲ請

フ、天皇乃勅レテ曰ク、汝獨コレヲ爲ヨ、他人ニ惑ハスコトナカルト、○天皇在位十四年一レテ崩ス、年四十八

第三十二代用明天皇ハ、欽明天皇ノ子ナリ、磐余ニ都ス、コレヲ、池邊雙槻宮トイフ、○敏達天皇ノ崩ズルニ及ビテ、穴穗部皇子陰ニ覬覦ヲ懷キ又殯宮ニ入りテ、其ノ皇后ヲ烝センコトヲ謀ルニ輪逆コレヲ拒ム皇子怒リテ物部守屋ヲミテ逆ヲ殺サシム、○天皇病アリ、群臣アレハ佛ニ禱ラ、コトヲ議セシム、物部守屋中臣勝海コレヲ諫

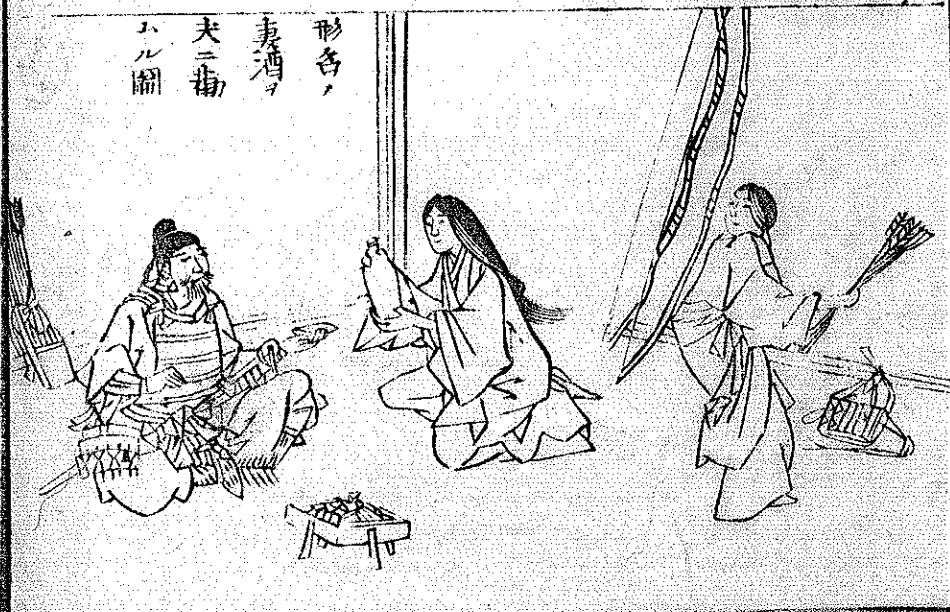
ハ蘇我馬子詔旨ヲ賛成ス穴穗部皇子僧ニ引キテ宮ニ入ル守屋怒リテコレヲ呪ス是ヨリ馬子ト守屋勝海ト怨隙滋甚シ馬子述見赤檮ヲシテ勝海ヲ殺サシム天皇在位一年ニシテ崩ス享年未詳

第三十三代崇峻天皇ハ、欽明天皇ノ子ナリ、用明天皇崩シテ嗣無シ物部守屋諸皇子ヲ去リテ穴穗部皇子ヲ立テントス蘇我馬子其ノ謀ヲ聞キテ敏達天皇ノ皇后及屋姫尊即推古天皇ヲ奉シ人ヲシニ穴穗部皇子及宅部皇子ヲ殺サシム

又廐戸皇子ト謀リ、守屋ヲ攻メテ、其ノ族ヲ殲ス
是ニ於テ、吹屋姫尊群臣ト策ヲ定メテ、大皇ヲレ
テ即位セシム。倉祿宮ニ治ス。○蘇我馬子專横日
ニ甚シ、天皇コレヲ疾ム。馬子懼レテ、東漢駒ヲレ
テ、天皇ヲ弑セシム。駒コレヨリ、馬子ノ寵ヲ恃ミ
其ノ女ヲ姦ス。馬子怒リ、駒ヲ殺シテ曰ク、吾君ヲ
弑シ、賊ヲ誅スト。○天皇在位五年、年七十三
第三十四代推古天皇ハ、用明天皇ノ同母妹ナリ
敏達天皇ノ五年ニ、皇太后ナリ。是ニ至リテ、豐浦
宮ニ即位ス。後小墾田宮ニ遷ル。○廐戸皇子ヲ立

テ、太子トシ、政ヲ攝セシム。太子及蘇我馬子ニ
詔レテ、佛法ヲ興隆セシム。是ニ於テ、群臣競ヒテ
佛寺ヲ造ル。○百濟ヨリ曆天大地理、遁甲、方術等
ノ書ヲ獻フ。太子憲法十七條ヲ撰ス。詔シテ、守位
十二階ヲ定ム。又天皇記、國記及諸臣、庶人等ノ本
記ヲ錄セシム。小野妹子ヲ隋ニ遣ハス。支那ト通
ズルコト此ニ始マル。池溝コト倭山背河内ニ作リ、
國毎ニ屯倉ヲ置ク。在位三十六年ニシテ崩ル。年
七十五。遺詔シテ、厚ク葬ルコト勿カシム。
第三十五代舒明天皇ハ、敏達天皇ノ孫ニシテ、押

坂彦人、大兄皇子ノ子ナ
 リ都ヲ飛鳥岡ニ遷スコ
 レヲ岡本宮トイフ、○蝦
 夷反ス、上毛野形名ヲレ
 テ討チテコレヲ平ケシ
 ヲ其ノ妻夫ヲ助ケテ功
 アリ、○始メテ斗升斤量
 ヲ定ム、○天皇在位十三
 年ニシテ崩ズ、享年未詳
 第三十六代皇極天皇ハ



敏達天皇ノ曾孫ニシテ、弟淳王ノ女ナリ舒明天
 皇ノ二年ニ皇后トナリ是ニ至リテ即位ス飛鳥
 板蓋宮ニ治ス、○蘇我蝦夷ノ子入鹿政ヲ擅ニシ
 ハ子相與ニ不軌ヲ謀ル中大兄皇子、大智中臣鎌
 足等ト謀リテ父子ヲ誅ス、蝦夷誅セラル、ニ臨
 ミテ、慈天皇記、國記、及珍寶ヲ焚ク、拙意入、國記ヲ
 火中ヨリ取リテ、中大兄皇子奉ル、○天皇位ニ
 皇子孝德天皇ニ讓ル、在位三年、
 第三十七代孝德天皇ハ、皇極天皇ノ同母弟ナリ
 中大兄皇子ヲ立テ、皇太子トス、都ヲ難波長柄豐

時ニ遷ス、此ノ時始メテ年號ヲ建テ、大化トイ
ス、神武天皇卽位紀元ノ年ノ距ルコト一千三百
五年ナリ、○鐘匱ヲ朝ニ設ケテ、冤枉ヲ訴ヘシメ、
畿内ヲ定メ、關驛ヲ建テ、國造ノ罷メ、國司郡司ニ
置キ、國界ヲ分チ、田制ヲ定メ、租庸調ノ法ヲ制シ、
又冠十三階ヲ定メ、更ニ十九階ヲ制シ、八省百官
ヲ置ク、國家ノ制度大ニ備ハル、在位十年ニシテ
崩ス、年五十九

第三十八代齊明天皇ハ、皇極天皇、重祚ノ號ナリ、
飛鳥板蓋宮ニ卽位シテ、明年、飛鳥岡本宮ニ遷ル

コレヲ後飛鳥岡本宮ト云フ、○阿倍比羅夫舟師
ヲ率井テ蝦夷ヲ征シ、遂ニ肅慎ヲ伐ク、○有間皇
子、反ヲ謀ル事發シニ誅メ伏ス、○新羅兵ヲ唐國
ニ借リテ、百濟ヲ伐ツ、天皇コレヲ救ハシコトヲ
欲シテ、親舟師ヲ帥井、西州ニ幸シ、遂ニ筑紫朝倉
宮ニ崩ス、在位七年、前後合セテ、十年ナリ、年六十
八、

第三十九代、天智天皇ハ、舒明天皇ノ子ナリ、都ヲ
近江國ニ遷ス、コレヲ大津宮トイフ、○天皇至孝
ニシテ、先帝ヲ殯スルコト六年、明年ニ至リテ、始

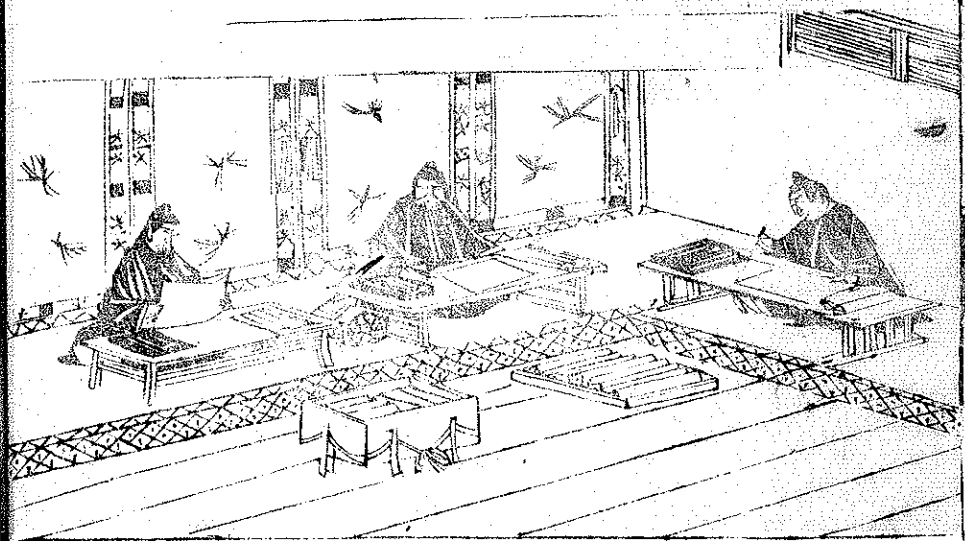
メテ即位ノ禮ヲ行フ、○敕シテ冠位二十六階ヲ
制ス、○中臣鎌足ヲ大臣ニ任シ、大織冠ニ叙シ、藤
原氏ヲ賜フ、大友皇子、弘文天皇ヲ太政大臣トス、太政
大臣、此ニ始マル侍臣ニ詔レテ、律令ヲ撰ビ、戶籍
ノ法ヲ定メシム、又大堤ヲ筑紫ニ築キテ、水ヲ貯
フ、名ケテ水城ト云フ、始メテ、御製ノ漏刻ヲ置キ、
鐘鼓ヲ擊テテ、以テ時ヲ報ゼシム、○天皇病アリ、
皇太弟、大海人皇子、天武天皇ヲ召レテ、屬スルニ後事
ヲ以テス、皇太弟、疾ト稱シ、固辭シテ、僧トナリ吉
野ニ入ル、是ニ於テ、大友皇子ヲ皇太子トス、天皇

文學ヲ好ミ、治體ヲ明ニシ、學校ヲ興シ、典禮ヲ制
ス、其文物憲章粲然トシテ、觀ルベシ、在位十年ニ
シテ崩ズ、年四十六、

第四十代弘文天皇ハ、天智天皇ノ子ナリ、大津宮
ニ即位ス、尋テ大海人皇子、兵ヲ舉ゲ、天皇、コレヲ
征シテ、克メズ、近江國長等ノ山前ニ崩ズ、コレヲ、
壬申ノ亂トイフ、在位七月、年二十五、明治三年、始
メテ諡ヲ上ル、

第四十一代天武天皇ハ、天智天皇ノ同母弟ナリ、
飛鳥淨見原宮ニ即位ス、詔シテ律令ヲ定メ、帝紀

律令ヲ定メ
妃ノ
撰
圖



及、上古ノ事ヲ撰録セシメ、
メ、親王ヨリ、庶人ニ至
ルマテ人、服色ヲ分チ天
下諸氏ノ姓ヲ定メテ、八
種トシ、爵位ノ制ヲ改メ
テ、諸王ニ十二階諸臣ニ
四十八階トス、○諸國ノ
境域ヲ定ム、○天皇在位
十五年ニシテ崩ス、
トラ
年
詳

第四十二代持統天皇ハ天智天皇ノ女ニシテ、天
武天皇ノ皇后ナリ、天武天皇崩ズルニ及ビテ朝
ニ臨ミ政ヲ聽ク後三年、皇太子草壁薨ズ因リテ
即位シ、藤原宮ニ治ス、○人津皇子、反テ謀リ、事發
シテ死ヲ賜フ○詔シテ、服色ヲ定メテ七種トシ、
朝堂座上ノ禮ヲ制ス、始メテ、元嘉曆ト、儀鳳曆ト
ヲ行ス、又陣法博士ヲ、諸國ニ遣ハシテ、武ヲ講セ
シム、○天皇位ヲ珂瑠皇子
文武天皇ニ讓ル、在位十年、
大寶二年十二月崩ス、年五十八
第四十三代文武天皇ハ岡宮天皇
天武帝ノ太子
草壁皇子ノ

子ナリ、藤原宮ニ即位ス、持統天皇ヲ尊ビテ、太上天皇ト稱ス、太上天皇ノ號此ニ始マル。○詔シテ、官各位號、服色ヲ改メ、位記ヲ用井テ、位冠ヲ賜ノコトヲ傳ム、律令ヲ撰定シ、新律度量ヲ頒ツ、又田租ノ法ヲ定ム、在位十一年ニシテ崩ス、年二十五。第四十四代、元明天皇ハ、天智天皇ノ女ニシテ、文武天皇ノ母ニリ、都ヲ平城ニ遷ス、以下光仁天皇トテ此ノ都スル。○陸奥越後ノ蝦夷反ス、伐チテコレヲ平グ。○始メテ都亭驛ヲ置キ、又挑文師ヲ、諸國ニ遣ハシテ、錦綾ヲ織ルコトヲ教ヘシム。○大

呂古事記ヲ上ツル、又諸國ニ詔シテ、風土記ヲ奉ラシメ、郡縣ノ名務メテ佳字ヲ用井シム。○使ヨ七道ニ遣ハシテ、囚徒ヲ録ヤシム。○陸奥出羽ノ蝦夷南島ノ奄美夜久、度感信覺、球美等ノ人來朝シテ、方物ヲ獻ズ。○天皇位ヲ永高内親王元正ニ禪ル、在位七年、養老五年十二月崩ス、年六十一。第四十五代、元正天皇ハ、文武天皇ノ姪ナリ。○諸國ニ令シテ、調庸ノ斤兩長短ヲ定メ、諸帳簿ノ式ヲ頒ツ、又藤原不比等等ニ敕シテ、律令ヲ修メシメ、國內ノ百姓ヲシテ、租ヲ右ニセシム。○始メテ、

諸國ニ按察使ヲ置キ、又渡島、津輕、津司等ニ、靺鞨國ニ遣ハレテ、其ノ風俗ヲ觀セシム。○舍人親王、日本紀三十卷、系圖一卷ヲ上クル。○蝦夷反ス。丹治比縣守等ヲシテ、討ナテコレヲ平ゲシム。○天皇位ヲ首皇子^{聖武}ニ禪ル、在位九年、天平二十年四月崩ズ、年六十九。

第四十六代聖武天皇ハ、文武天皇ノ子ナリ。○蝦夷反ス、藤原宇合等ヲシテ、討チテコレヲ平ゲシム。○始メテ畿内總管諸道鎮撫使ヲ置キ、尋テ節度使ヲ置ク。○新羅來朝ノ期、三年ニ一タビスル

コトヲ許ス。○藤原廣嗣反ス、大野東人ヲシテ討チテコレヲ平ケシム。○天皇佛法ヲ尊崇シ、萬ク僧侶ヲ敬ス、金銅盧舍那佛ノ大像ヲ造ル、出家セテ、自勝滿ト稱ス、在位三十五年ニシテ位ヲ阿倍皇女^{孝謙}ニ禪リ、天平勝寶八歲五月崩ズ、年五十六。

第四十七代孝謙天皇ハ、聖武天皇ノ女ナリ、始メテ紫微内相ヲ置キ、藤原仲麻呂ヲ以テ、コレニ任シ、内外諸兵事ヲ掌ラシム、橘奈良麻呂其ノ權ヲ專ニスルヲ惡ヒコ、ヲ除カンコトヲ欲シ、遂ニ

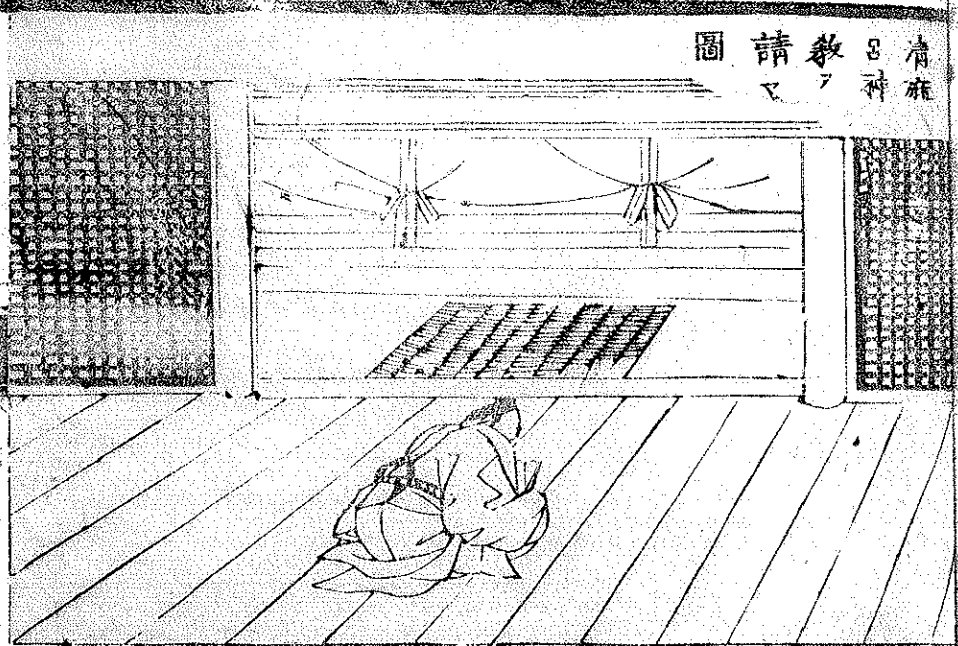
廢立ヲ謀ル事泄レテ獄ニ下リ黨與罪ヲ得ル者
衆ニ時ニ藤原豐成右大臣タリ寛厚ニシテ時望
ヲ得仲麻呂コレヲ忌ミ遂ニ豐成ヲ誣ヒテ其ノ
黨ナリトス因リテ太宰員外帥ニ貶ス是ヨリ仲
麻呂益横肆ナリ○天皇在位十年ニシテ位ヲ大
次皇子淳仁ニ讓ル

第四十八代淳仁天皇ハ崇道盡敬皇帝天武帝ノ子舍人親王
ノ子ナリ○仲麻呂等一詔シテ官制ヲ改メシ
ム又仲麻呂ニ名ヲ稱勝ト賜ミ姓ニ惠美ノ二字
ヲ加ス○國司ノ交替六年ヲ以テ限トシ三年毎

ニ巡察使ヲ遣ハレテ治績ヲ檢校セシム○初上
皇孝德押勝ヲ寵ス既ニシテ僧道鏡ヲ近ツク天
皇屢以テ言ヲナス上皇擇バス五位以上ヲ朝ニ
召シ親國家ノ大事ヲ決ス押勝道鏡ノ爲ニ其寵
ヲ奪ハシムコトヲ懼レ奏レテ四畿内伊勢美濃
越前近江丹波播磨ノ國人兵事都督ヲ請ヒ遂ニ
近江ニ據リテ反シ鹽燒王ヲ立テ帝ト稱ス藤
原茂下麻呂ヲシテ討チテコレヲ誅セシム上皇
詔シテ道鏡ヲ大臣禪師トシ封戸職分田皆大臣
ニ準ス天皇ヲ廢シテ淡路公トシ其ノ國ニ遷ス

世ニ淡路廢帝ト稱ス○天皇、在位六年、天平神護元年十月淡路ニ崩ズ、年三十三、後明治三年謚ヲ上ル、

第四十九代稱德天皇ハ、孝謙天皇重祚ノ號ナリ、天皇既ニ佛ニ歸シ、是ニ至リテ、復萬機ニ臨メリ、和氣王反ヲ謀リ事發シテ誅ニ伏ス、詔シテ、道鏡ヲ以テ太政大臣禪師トシ、文武百官ヲシテ拜賀セシム、尋テ法王ノ位ヲ授ケ、輿服飲食、皆供御一擬セシメ、大小ノ政其決ヲ取テサルハ無シ、會太宰ノ主神習宜阿曾麻呂宇佐八幡大神ノ託宜



清麻呂神教請圖

ト矯リ道鏡ヲレテ、位ニ即カシムバ、天下泰平ナラント奏ス、是ニ於テ、天皇、和氣清麻呂ヲ宇佐ニ遣ハレテ、神教ヲ請ハシム、發スルニ臨ミテ、道鏡又示スニ恩威ヲ以テレ其ノ非望ヲ遂ケンコトヲ欲ス、清麻呂歸リテ神語ヲ奏レテ曰ク、我が國

開闢以來君臣ノ分定レリ、未_レ臣ヲ以テ君トセシ
コトアラズ、天_日嗣ハ、必皇緒ヲ立チ、早ク無道
ノ人ヲ除ケト、道鏡怒リテ清麻呂ヲ大隅ニ流シ
入ラシテ、コレヲ途ニ殺サレハレトシテ、能ハス
○天皇在位五年、前後合セテ、十五年ニシテ崩ズ
年五十三、

第五十代光仁天皇ハ、天智天皇ノ孫ニシテ、春日
宮_{施基}天皇_{親王}ノ子ナリ、天皇、天平勝寶以來國ニ饑
貳無クシテ、人々相疑ヒ横禍ニ罹ル者多キ、慮
リ酒ヲ縱ニシテ、自晦ス、稱徳天皇崩ズルニ及ヒ

テ、遺詔ヲ奉ジ即位シ、道鏡ヲ遣下野藥師寺別當
ニ貶シ、清麻呂ノ召還シテ、本位ニ復ス、○詔ニテ、
内外ノ官員ヲ省ク、又、三關邊要ノ外ハ悉諸國ノ
冗兵ヲ除キコレヲシテ、農耕ニ就カシム、三關ト
ハ、伊勢ノ鈴鹿、美濃ノ不破、越前ノ愛發ナリ、○天
皇在位十二年ニシテ、位ヲ皇太子ニ譲リ、尋テ崩
ズ、年七十三、

第五十一代桓武天皇ハ、光仁天皇ノ子ナリ、都ヲ
山城ニ遷レテ、コレヲ平安城トイフ、ユレヨリ以
後歷代ノ皇居タリ、○淡海、三船ヲシテ、神武天皇

ニリ以來列朝ノ謚號ヲ定メシム、○詔レテ三關
ヲ廢シ公私ノ往來一便フ是ノ時蝦夷數反ス大
伴弟麻呂坂上田村麻呂等ヲシテ討ナテコレヲ
平ケルム、○菅野真道等續日本紀ノ上ル、天皇在
位二十年ニシテ崩ズ年七十、

第五十二代平城天皇ハ桓武天皇ノ子ナリ○皇
弟伊豫親王反ヲ謀ルト告ル者アリ因リテ死ヲ
賜ヒ其ノ黨ヲ流ニ處ス、○天皇在位四年ニシテ
位ヲ皇太弟ニ讓ル、天長元年七月崩ズ年五十一、
第五十三代嵯峨天皇ハ平城天皇ノ同母弟ナリ、

○尚侍藥子平城上皇ニ復辟ヲ勸メ旨ヲ矯ノテ
都ヲ平城ニ遷サントシ、人心騷然タリ、天皇詔シ
テ藥子ノ罪ヲ暴白シ、其ノ兄藤原仲成ヲ收メ上
皇怒リテ兵ヲ率テ東國ニ入ラシントム、天皇乃仲
成ヲ誅シ、兵ヲ遣ハシテ上皇ヲ路ニ邀キラシム、
上皇進ムコトヲ得ズ、因リテ宮ニ還リ、剃髮シ、藥
子自盡シテ事平ゲリ、○天皇博學ニシテ文ヲ能
クシ、書ヲ巧ニス、在位十四年ニシテ位ヲ皇太弟
ニ讓ル、承和九年七月崩ズ年五十五、

第五十四代淳和天皇ハ嵯峨天皇ノ弟ナリ、○清

原夏野等ニ敕シテ、令義解ヲ撰バレム。○夏野奏
シテ、親王ヲ諸國守トシ、庶務ヲ習メレム。コト
ヲ請フ。是ニ於テ、上總常陸、上野ヲ以テ、親王ノ仕
國トス。○天皇在位十年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓
ル。承和七年五月崩ス。年五十五。
第五十五代、仁明天皇ハ、嵯峨天皇ノ子ナリ。○伴
健岑、橘逸勢等、陰ニ太子恒貞ヲ奉ジテ、天皇ヲ廢
セシム。トヲ謀リ、事發ル。因ッテ太子ヲ廢シ、健岑
逸勢ヲ流ニ處ス。○日本後紀成ル。○天皇在位十
七年ニシテ崩ス。年四十一。

第五十六代、文德天皇ハ、仁明天皇ノ子ナリ。天皇
資性明察、心ヲ政事ニ留メテ、能ク人ノ姦ヲ知ル。
但多病ナルヲ以テ、事ヲ親ルコトアタハズ。在位
僅ニ八年ニシテ崩ス。時人コレヲ惜ム。年三十二。
第五十七代、清和天皇ハ、文德天皇ノ子ナリ。天皇
九歲ニシテ即位ス。政ヲ藤原良房ニ攝セシム。其
ノ外祖タルヲ以テナリ。既ニシテ、良房薨ス。天皇
政ヲ親シ。日萬機ヲ紫宸殿ニ視ル。是ヲ以テ、内外
肅然トシテ、國家寧靜ニリ。○貞觀格式及續日本
後紀成ル。○天皇在位十八年ニシテ、位ヲ皇太子

ニ讓ル、元慶四年十二月崩ス、年三十一

第五十八代陽成天皇ハ、清和天皇ノ子ナリ、天皇
十歳ニシテ即位ス、藤原基經政ヲ奏ス、良房ノ例
ニ沿カヘルナリ、○出羽ノ夷俘反ス、藤原保則小
野春風等ヲシテ討ナテコレヲ平ケシム、○文德
天皇實錄成ル、○天皇遊嬉度無ク、屢不幸ヲ被ス
是ニ於テ、基經公卿ト謀リ、天皇ニ請ヒテ、位ヲ讓
ラシム、是ノ時年十七、在位八年ナリ、天曆三年九
月崩ス、年八十二

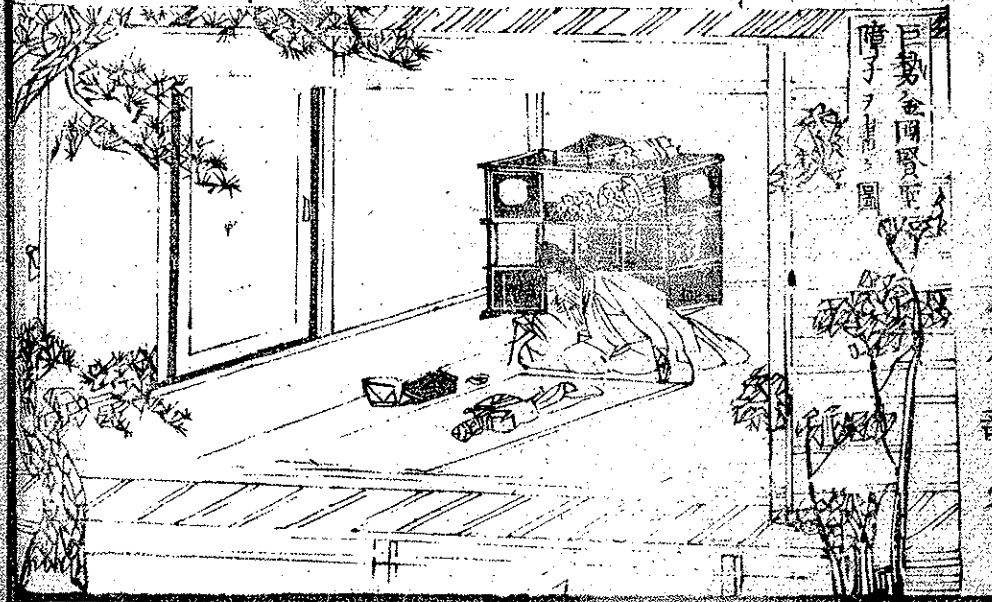
第五十九代光孝天皇ハ、仁明天皇ノ子ナリ、○天

皇謙恭、麗仁ナリ、故ニ、基經群臣ト迎ヘテコレヲ
立メ、○公卿奏シテ、五位以上ノ封祿ヲ減セシム
トヲ請フ、許サズ、軟シテ、御服ノ絹綿ノ數ヲ減ス
○天皇在位三年ニシテ崩ス、年五十八

第六十代宇多天皇ハ、光孝天皇ノ子ナリ、○詔シ
テ、萬機巨細ト無ク、一切基經ニ關白セシム、關白
此ニ始マル、尋テ又ニ宮ニ准ス、○天皇嘗テ畫工
ヲシテ、殷周以來ノ名臣ノ像ヲ紫宸殿ノ障子ニ
圖セシム、コレヲ賢聖障子トイフ、在位十年ニシ
テ、位ヲ皇太子ニ讓ル、承平元年七月崩ス、年六十

五

第六十一代醍醐天皇ハ
宇多天皇ノ子ナリ、○藤
原時平、菅原道真ト共ニ
政ヲ執ル、道真庶務ヲ綜
理レ、裁決流ル、ガ如レ、
天下望ヲ屬ス、時平等コ
レヲ嫉ミ、誣ナルニ異
圖アルヲ以テス、天皇其
ノ讒ヲ信レテ道真ヲ太



巨勢金岡賢重
障子ヲ書シテ
繪ス

宰權帥ニ左遷ス、天下コレヲ冤トス、(天皇心ノ
政事ニ留メ、温顔ヲ以テ群臣ニ對シ、其ノ言ヲ盡
サレム、ス嘗テ寒夜ニ方リ、御衣ヲ脱レテ曰ク、凍
餒ノ民以テ想フベキナリト、故ニ、後世稱シテ、延
喜ノ政トイフ、延喜ハ、(天皇)ノ年號ナリ、此ノ世ニ
延喜式及三代實錄成ル、○天皇在位三十三年、位
ヲ皇太子ニ讓リ、尋テ崩ズ、年四十六

第六十二代朱雀天皇ハ、醍醐天皇ノ子ナリ、○平、
將門伯父、常陸大掾國香ノ子、常陸ニ殺ス、武藏權守
興世王、凶險コレヲ亂ヲ好ム、將門延キニ謀主トシ

下總ニ反シ、坂東諸國ヲ陷シ、都ヲ倭島ニ建テ偽
百官ヲ備ヘ、自新皇ト稱ス。是ノ時ニ當リテ、藤原
純友既ニ難ヲ伊豫ニ起シ、東西相應、天下騷然
タリ。因リテ、藤原忠文ヲ征東大將軍トス。未ダ至ラ
ザルニ平貞盛、藤原秀郷等將門ヲ討グス。尋テ橘遠
保、純友ヲ伊豫ニ誅シ、首ヲ京師ニ傳ヘ、賊悉平ク
コレヲ承平天慶ノ亂トイフ。承平天慶モ亦當時
ノ年號ナリ。○天皇、在位十六年ニシテ、位ヲ皇太
弟ニ讓ハ、天曆六年八月崩ス。年三十
第六十三代村上天皇ハ、朱雀天皇ノ同母弟ナリ。

○天德四年九月、禁中火ク、累世ノ寶器文籍多ク
焚クタリ。獨神鏡ノミ、灰燼ノ中ニ在リテ、形質損
ズ。○天皇嘗テ一老吏ニ問ヒテ曰ク、朕カ治延
喜ノ朝ト得失何如對ヘテ曰ク、老吏何ヲカ知ラ
ン。唯主殿寮進ル所ノ松明舊ニ比スレハ多ク、レ
テ率分堂ニ草生スルヲ異ナリトスルノミト。天
皇大ニ愧ヂテ、益政事ヲ勤ム。時ニ年號ヲ天曆ト
イハ、故ニ後世治ヲ説ク者必延喜天曆ヲ稱ス。○
天皇、在位二十一年ニシテ崩ス。年四十二。

第六十四代冷泉天皇ハ、村上天皇ノ子ナリ。○橘

繁延等爲平親王ヲ奉シテ、亂ヲ作サンコトヲ謀
ル、事發シテ流ニ處ス。○天皇儲貳タリシトキヨ
リ心疾ヲ患フ、位ニ卽クニ及ビテ、増劇シ、是ノ以
テ政、外戚藤原氏ニ歸ス。朝綱ノ振ハザルコト寔
ニ此ニ始マル。○天皇在位二年ニシテ、位ヲ皇太
弟ニ讓ル。寛弘八年十月崩ズ。年六十二。

第六十五代圓融天皇ハ、冷泉天皇ノ同母弟ナリ
在位十五年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓ル。正曆二年
二月崩ズ。年三十三。

第六十六代華山天皇ハ、冷泉天皇ノ子ナリ。○天
皇卽位ノ初、心ヲ政事ニ委シ、紀綱肅然タリ。女御
怙子卒ヌルニ及ビテ、悲哀シテ已マズ。遂ニ藤原
道兼ニ誘ハレテ、潛ニ官ヲ出テ、華山ノ元慶寺ニ
入リ、落髮シテ僧トナル。○天皇在位僅ニ二年。寛
弘五年二月崩ズ。年四十一。

第六十七代一條天皇ハ、圓融天皇ノ子ナリ。○關
白藤原道長、權ヲ專ニス。天皇心コレヲ疾ムト雖、
遂ニ制スルコト能ハズ。○天皇在位二十五年ニ
シテ、位ヲ皇太子ニ讓ル。寛弘八年六月崩ズ。年三
十二。

第六十八代三條天皇ハ冷泉天皇ノ子ナリ、○藤原道長益專恣ナリ、○天皇在位五年ニシテ位ヲ皇太子ニ讓ル、寛仁元年五月崩ズ、年四十二、

第六十九代後一條天皇ハ一條天皇ノ子ナリ、○三條天皇敕シテ子敦明親王ヲ立テ、後一條天皇ノ儲貳トス、其ノ統ヲ存センコトヲ欲スレバナリ、既ニシテ東宮位ヲ辭ス、道長奏レテ、小一條院ト號レ上皇ニ准シ、皇弟敦良親王後朱雀天皇ヲ立テ、皇太弟トス、道長朝ニ立ツコト、四十餘年一家ニシテ三石ヲ出ダス、天皇皇太弟、皆其ノ女ヲ生ム

所ナリ、○天皇在位二十二年ニシテ崩ズ、年二十九、

清原光賴弑我則ト源賴義ニ来リ偽スル圖

第七十代、後朱雀天皇ハ

後一條天皇ノ同母弟ナ

リ、○皇居火ク神鏡火中

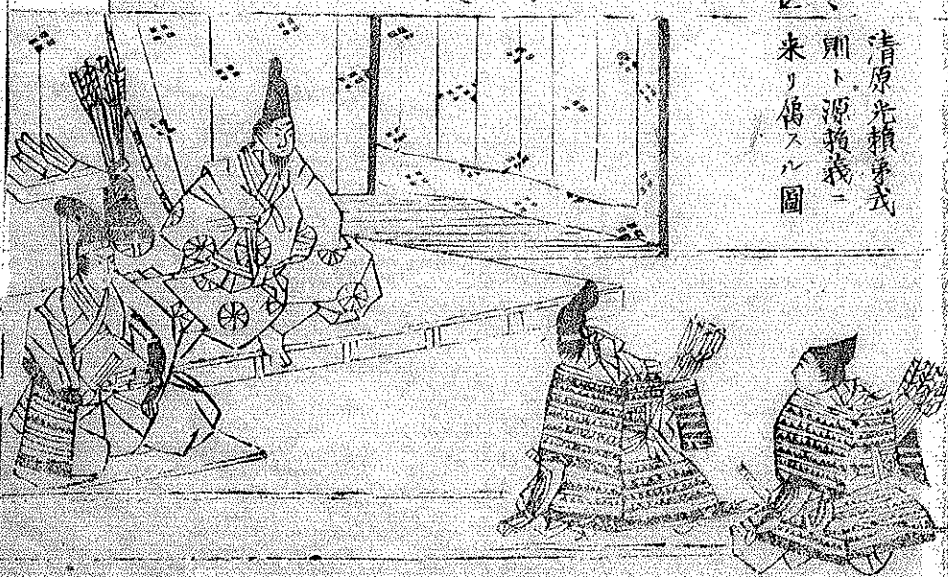
ニ在リテ、毀損セズ、○天

皇在位九年位ヲ皇太子

ニ讓ル、尋テ崩ズ、年三十

七

第七十一代、後冷泉天皇



ハ、後朱雀天皇ノ子ナリ、○陸奥ノ俘囚安倍頼時
亂ヲ作ス、源頼義ニ命ジテコレヲ討タシム、其ノ
子貞任又叛キ、執益張ル、頼義出羽ノ豪族清原武
則ヲ招致シ、共ニ入り、討チテコレヲ平グ、コレヲ
前九年ノ役トス、○天皇在位二十三年ニレテ
崩ス、年四十四